

名戸ヶ谷ビオトープだより

第 106 号 2026 年秋号

2026 年 9 月 5 日発行

ハイケボタルの観察会報告

ホタル観察会推移					2026/6/28	
年	観察日	確認数(匹)	参加者	観察者	Aゾーン	Bゾーン
2026	6月28日	雨天のため取りやめ				
	6月21日	5	10	藤平	5	0
	6月13日	5	4	藤平	5	0
2025	6月28日	14	10	藤平	11	3
	※ 6月22日	17	7、観察会以外	佐藤(清)	9	8
	6月21日	14	1	藤平	8	6
	6月15日	2	1	藤平	1	1
2024	7月21日	10		佐藤(清)	10	0
	6月28日	14		山村	12	2
	6月24日	16		佐藤(清)	10	6
	6月22日	13		藤平	5	8
	6月20日	7		久米	3	4
	6月17日	9		倉岡	5	4
	6月16日	9		佐藤(清)	0	9
	※ 6月14日	6	自生確認	小笠原	1	5

今年からホタルの幼虫放流がなく自生の観察です。6月に3回の予定で市民向けポスターも掲示しました。結果は5匹と前年に比べ大幅に減少し、Bゾーンでは残念ながら確認出来ませんでした。日程も雨天の為に2回だけとなりました。来年は増えていく様に引き続き生息環境の整備に努めます。

- ・第1回 6月13日(土) 20時～、月明かりなし、気温23℃、
参加者は会員2人と市民家族2人
5匹を確認。ホタル水路木道周辺で3匹、ホタル水路側 田んぼの木道沿いで2匹
- ・第2回 6月21日(日) 前日が雨の為に延期、20時～ 曇りで月明かりなく、気温23℃
参加者は会員家族6人と市民4人
ホタル水路周辺で5匹、うち2匹はヤナギの木の奥で発光し飛び交っていました。
- ・最終回 6月28日(日) 前日が台風一過で天候不安定の為に延期しました。
参加者は市民3名で傘をさして観察も、雨が降り出して観察会を中止しました。
昨年までは幼虫放流100匹前後を行い、今年はビオトープ自生のホタルです。

(参考:最高観察数 2025年6/22 17匹、2024年6/24 16匹)

(藤平 三郎)

名戸ヶ谷小学校創立 50 周年 おめでとうございます

名戸ヶ谷小学校との関わりは「育てる会」が発足した 2003 年からです。数年間休耕していた田んぼで稲作を再開させましたが、同時に名戸小の総合学習としても開始されました。4 年目までは 5・6 年生の参加で 5 年生が稲を刈り、6 年生が刈った稲束を学校までリヤカーで運んでプール周りのフェンスに掛けて天日干しました。脱穀も校庭の西側広場で足踏み脱穀機 2 台と唐箕で行っていました。以降、東日本震災後と新型コロナ時を除き、5 年生が現地のビオトープ広場で継続しています。毎年 11 月に開催されていた「名戸小ふれあいの集い」では校庭でもち米の蒸しから餅

つき、もち作りをして家族で試食しました。震災後はしばらく休止となりましたが、再開後は体育館で餅つきをしています。

児童たちからの活動感想文や卒業式での「ひとこと」でビオトープでの米作りが鮮烈な思い出として語られているのが印象的です。

震災、新型コロナでの休止、一昨年は猛暑で稲刈りの中止がありました。これからも温暖化などにより活動が制限されることを懸念していますが、名戸小の児童たちとは一緒に貴重で楽しい体験を継続していきたいと考えていますので宜しくお願いします。

(小笠原 智)



児童たちによる田植え



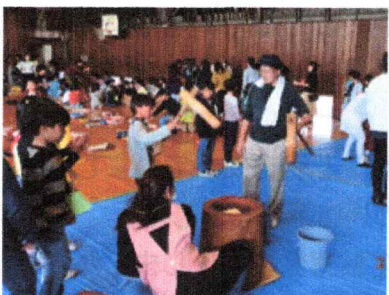
刈った稲は学校プールフェンスで天日干し



校庭西側広場での脱穀



ふれあいの集いでは校庭で餅つき



体育館内で全校児童が餅つき



テント内で餅切りして
あんこ・きな粉餅作り

春の生態系調査

6月17日（水）晴、気温 26 度、9:00 ～ 10:30

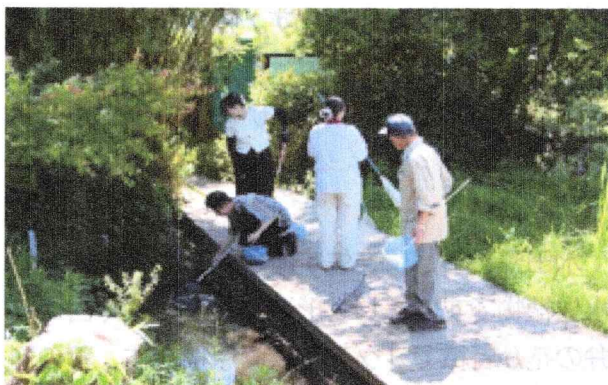
朝から晴れの良い天気となりました。参加者は会員 4 名と開智国際大学の先生 2 名、学生 7 名の計 13 名。講師の松清氏からビオトープの成り立ちと概要について話し、それから各自、捕獲網を持って生きものの観察です。学生とビオトープ内を巡り、その場で観察した生きものの説明をし、ホタル水路ではゲンジとヘイケボタルの説明です。最後に捕獲した生きものの詳しい説明と外来生物の話などで皆さんは熱心に聞き入っていました。生きものに触れての 1 時間あまり、学生の皆さんは生物多様性について知識も深まり有意義であった事と思います。確認できたものは 32 種。新種ではコフキトンボ（シオカラトンボより小型種）を確認です。前年同時期は 40 種、多少の変動はありますが、生息環境は維持していると思われます。（藤平三郎）



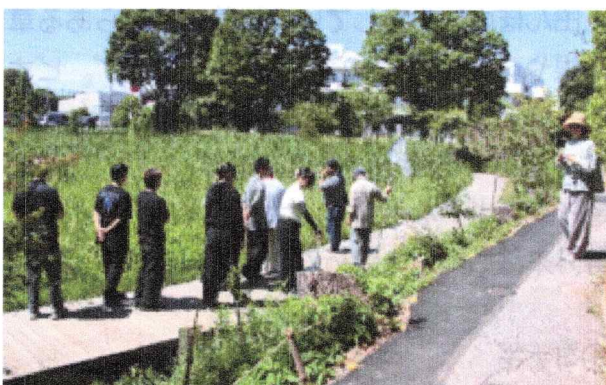
ビオトープの成り立ちと概要説明



生きものを観察中



生きものを観察中



ビオトープ内を巡り生きものの説明



ホタル水路でヘイケボタルの説明



捕獲した生きものの説明

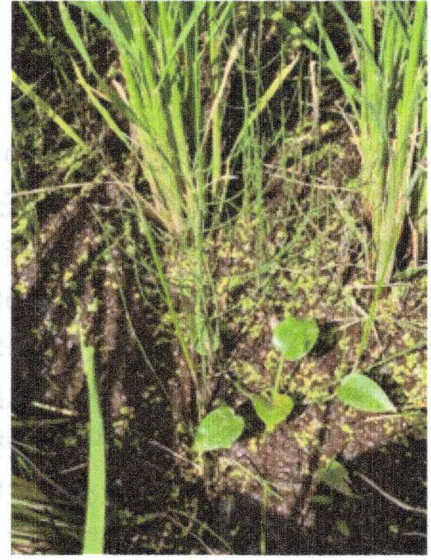
ビオトープ田んぼ内の雑草について



コナギとクログワイ（手前の線状に伸びた花茎）



オモダカ



イヌスギナ（中央の線状茎）

ビオトープの田んぼには農薬（除草剤）を一斉使っていません。育苗は藤心ライスセンターにお願いしていますので種まき時の消毒があり、ノビエはほとんどありません。

田んぼ内に生育している雑草は元からある草の根や球根、種子から発芽したものです。ビオトープで繁茂している主な雑草は①コナギだけではなく、②クログワイ③オモダカ④イヌスギナなど多く、ナガエツルノゲイトウ等外来種も勢力を強めています。

①コナギ

ミズアオイ科に分類される一年生の水田雑草です。アジアの温帯から熱帯にかけて広く分布し、日本でも本州以南でよく見られます。稲の成長を妨げる雑草として知られていますが、食用にされることもあります。（若い葉や茎は、おひたしや天ぷらで食べられます）成長すると青紫の花を咲かせますが、繁殖力が強いので早めの駆除が必要です。

②クログワイ

カヤツリグサ科に所属し、細長い花茎だけを伸ばす植物で湿地に生えます。泥の中に地下茎を長く這わせてあちこちから花径を出し、それが真っすぐに上に伸びます。根が深く、先端に黒いクワイに似た芋を付けて繁殖するので難防除水田雑草として扱われています。

③オモダカ

水田や湿地帯に自生するオモダカ科の多年生水生植物です。矢じり形の葉と夏に咲く白い3弁の花が特徴で「クワイ」の原種です。葉の形が武具の矢じりに似ている為「勝ち戦草」とも呼ばれ、武家の家紋にも使われました。

④イヌスギナ

トクサ科の多年生シダ植物です。スギナに似ていますがつくしは生ぜず地下茎を多く伸ばし、地上に直立する茎はスギナと同じで栄養茎を伸ばします。スギナのように食用にはならず「利用度のないスギナ」という意味があります。（牛には毒草です）

（小笠原 智）

月例活動状況の報告 (2026 年6月から8月まで)

6月20日(土) 当初予定日6月21日(日)は天候不良により変更

朝からどんより梅雨空です。作業は、Aゾーン 田んぼのコナギ取り、Bゾーン木道沿いの草刈り、市道脇の草刈り機による刈り取りをしました。終えてビオトープだより夏号(105号)の配布と先週のヘイケボタル観察会結果を報告しました。



田んぼのコナギ取り



Bゾーン木道沿い 草刈り



市道脇 草刈り機による刈り取り

7月19日(日)

湿度は80%近くで蒸し暑く、たっぷりと汗をかきました。作業は、Aゾーン田んぼのコナギ取り、Bゾーン木道沿いの草刈り、ザリガニ釣り場のヨシ刈り、市道脇の草刈り機による刈り取りです。終えて会員手作りのお菓子を頂き歓談しました。又、6月に2回実施したヘイケボタル観察会の結果を報告しました。



田んぼのコナギ取り



Bゾーン木道沿いの草刈り



ザリガニ釣り場のヨシ刈り



市道脇の草刈り機による刈り取り

8月23日(日) 当初予定日8月16日(日)は雨予報であった為に延期

曇り空で気温は27℃と猛暑でなく良かったです。作業は、稲刈り準備前の稲架(はぎ)かけパイプ組み立てと稲を束ねる麻紐の準備をしました。作業小屋からパイプを搬出し、田んぼの畔沿いに組み立て、手際よく作業を進める事が出来ました。稲刈りは9月5日(土)、6日(日)をお知らせし、終えて会員手作りのお菓子を頂きながら歓談しました。(藤平 三郎)



パイプの搬出



←

稲架かけ組み立て作業

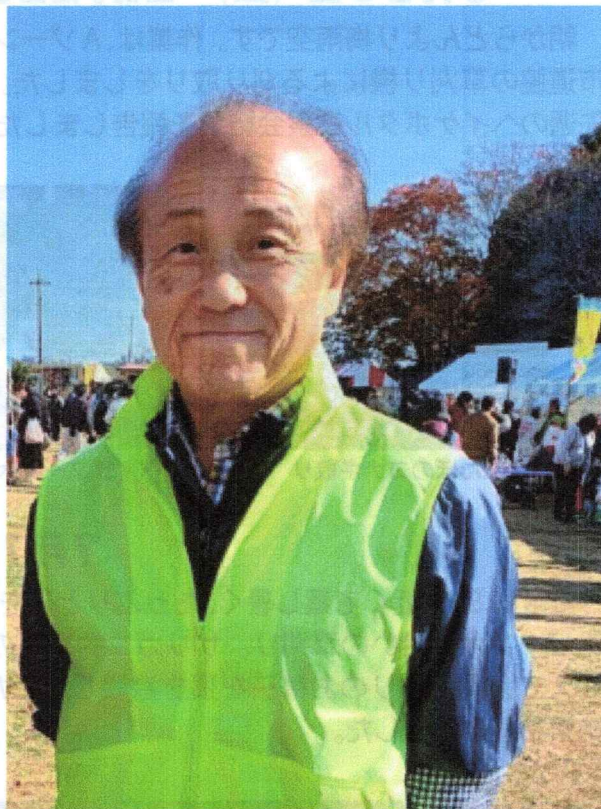
→

新会員の紹介 桑木野さん

新しく入会いたしました、桑木野と申します。

春に久米さんに誘われて名戸ヶ谷小の生徒さんの田植えの様子を見学し、7月には鈴木さんに誘われて見事な古代ハスを見学させていただきました。名戸ヶ谷にこんな豊かな自然が残っていること、そしてそれを維持管理運営されている方々がいることに感銘を受け、立派な活動をされているなあと感じました。

私は牛が田をすき、手作業で田植えや稲刈りをする農家に育ちました。子どもの頃は農作業がイヤで東京に出てきましたが、今では自然を守り育てるこの事業の重要性をよく理解しています。同時に、これだけの環境を維持されるのは並大抵ではない大変なご苦労があることとお察しいたします。そんな大切な自然を守る一員として、皆様と一緒に活動ができることを楽しみにしております。これからどうぞよろしくお願いいたします。



9月～11月の活動予定

- 9月 5日～6日：稲刈り ◎名戸小稲刈りは14日の週
20日：9月定例活動日
20日：秋の生きもの観察会
- 10月 3日：かしわ市環境ステーションこども環境クラブ観察会
10日：脱穀
18日：10月定例活動日
21日：秋の生態調査
- 11月 3日：収穫祭
11月の定例活動は未定

注) 詳細の日時・作業内容は担当幹事からメールにて連絡します。

名戸ヶ谷ビオトープに来てみませんか？

交通：柏駅東口より東武バス（5番乗り場）

「名戸ヶ谷行き」「新柏行き」で「名戸ヶ谷記念病院前」下車

面積：約 4,400 m²

湿性植物：53 種 生きもの：133 種

（2024 年、年間を通じて観察した種類）



<https://nadowaga-biotope.com/>

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会
発行責任者：小笠原 智